


課題No.2

土地利用型農業法人が取り組む 加工業務用になじんの生産安定

計画期間：令和4～5年度

対象者：（農）タカギ農産，（農）中塚ファーム育み，（農）中田アグリ，
（農）サンファームあがと，（農）みらいす青生（5経営体）



課題の背景

■ にんじん

水稲や大豆との作業が競合しない
土地利用型農業法人による面積増加

■ 課題

排水対策

生産技術の向上


品種の選定（肥大性、割れにくさ）

適期播種

病害虫防除

作型拡大（出荷時期延伸）

新たな販路の確保



成果指標

■ 定性的目標

生産技術の向上→品質確保、出荷量増加
安定生産（複数法人）→継続出荷

■ 定量的数値目標

対象経営体が加工業務用として12月末までに
出荷する総量 R4：7%増, R5：15%増

70.2t(R3)

→ 75.1t(R4) (実績：50.8t)

→ 80.7t(R5)



栽培技術向上に向けた支援



栽培技術向上支援 ほ場巡回



きめ細やかな巡回

生育状況の把握
病害虫等の早期発見
雑草発生状況の把握

生産者への声かけ、
生産者と確認

黒葉枯病の初期症状が出ています！
ヨトウムシの若齢幼虫がいます！
除草剤の追加散布が必要です！

適期防除の実施、
栽培技術向上

病害虫を早く発見できた
初期症状がどのようなものか分かった
注意すべきタイミングがわかった

栽培体系確立支援 現地検討会

■ 種苗会社担当者との巡回

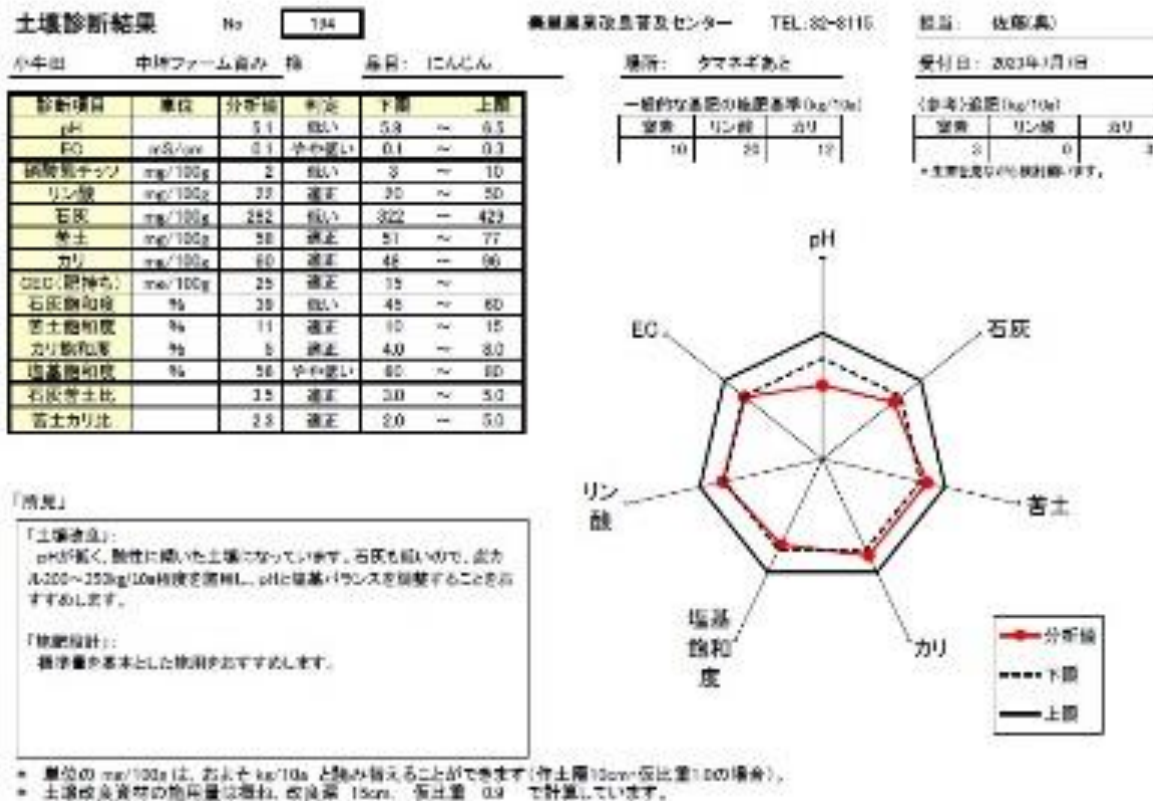


■ 収穫適期調査



他法人のほ場の様子を見られて参考になった。
種苗会社の担当者から様々な情報を聞いて参考になった。
収量や収穫日の予測ができて、実需者との交渉に役立った。

栽培技術向上支援 土壌分析、施肥設計支援



土壌の状態を把握し、適切な施肥が行われた

栽培技術向上支援 土壌環境調査

圃場排水性評価

T/27 (農) ←田アグリ

A:乾涸以前の体積含水率 (ef/m³)

B:肥料散布後の体積含水率 (ef/m³)

C:肥料が乾燥した後に排水開始し24hr後の体積含水率 (ef/m³)

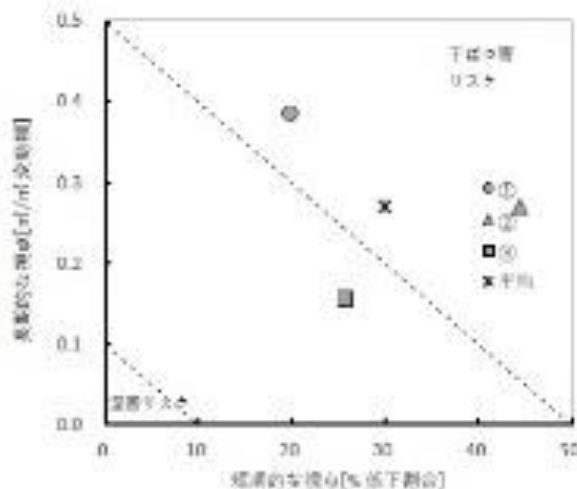
T/28入力欄

・相対的な視点 (C-C/B) % : 乾下割合

・相対的な視点 (B-A) : ef/m³ : 変動幅

①	②	③	平均
0.242	0.263	0.375	0.276
0.528	0.519	0.501	0.516
0.423	0.289	0.172	0.291

①	②	③	平均
19.9	44.5	35.7	33.0
0.30	0.27	0.30	0.27



各ほ場の土壌の排水性が把握できた



品種の検討

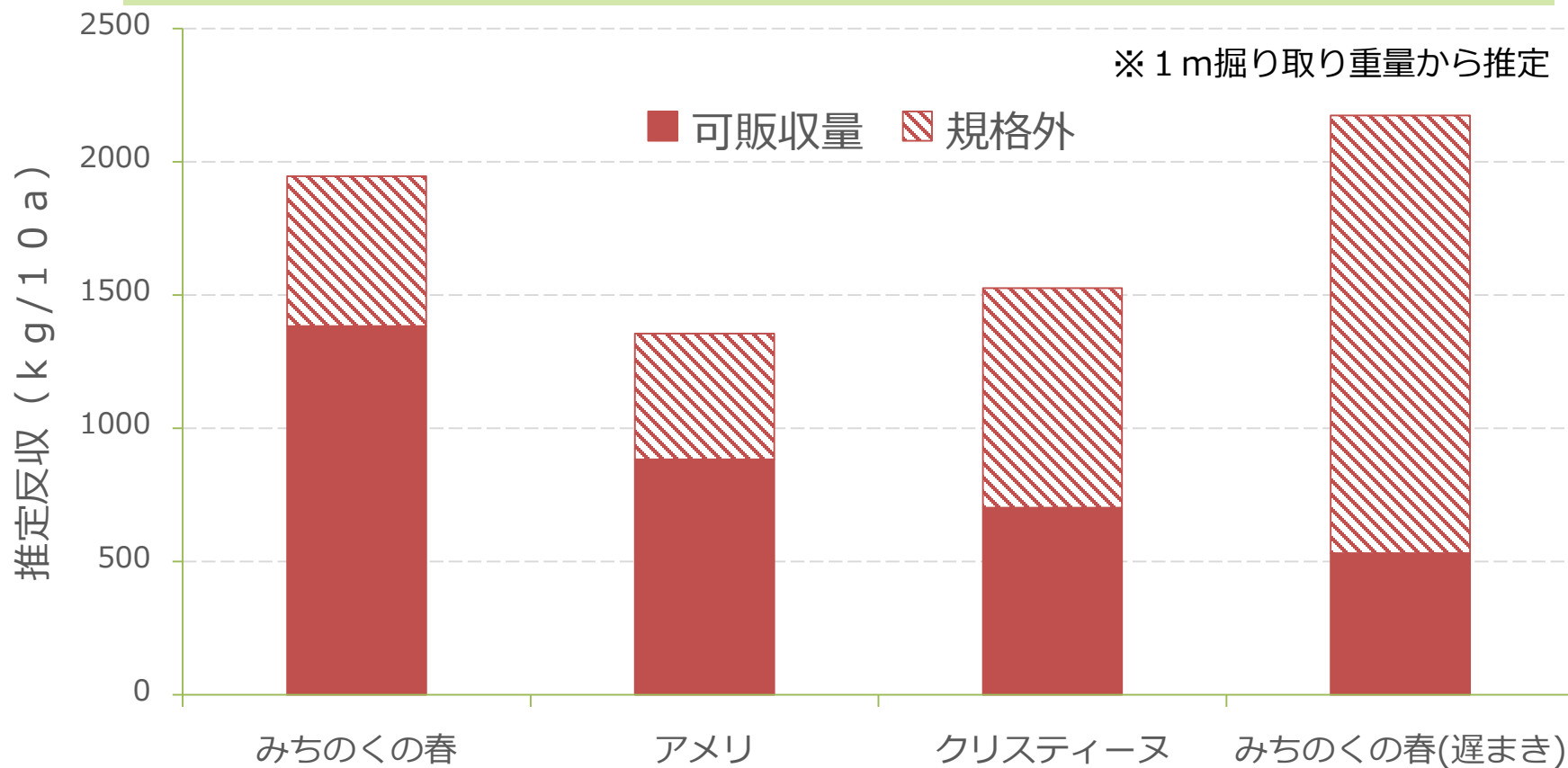
実需者ニーズ、リスクへの対応



栽培体系確立支援 品種検討

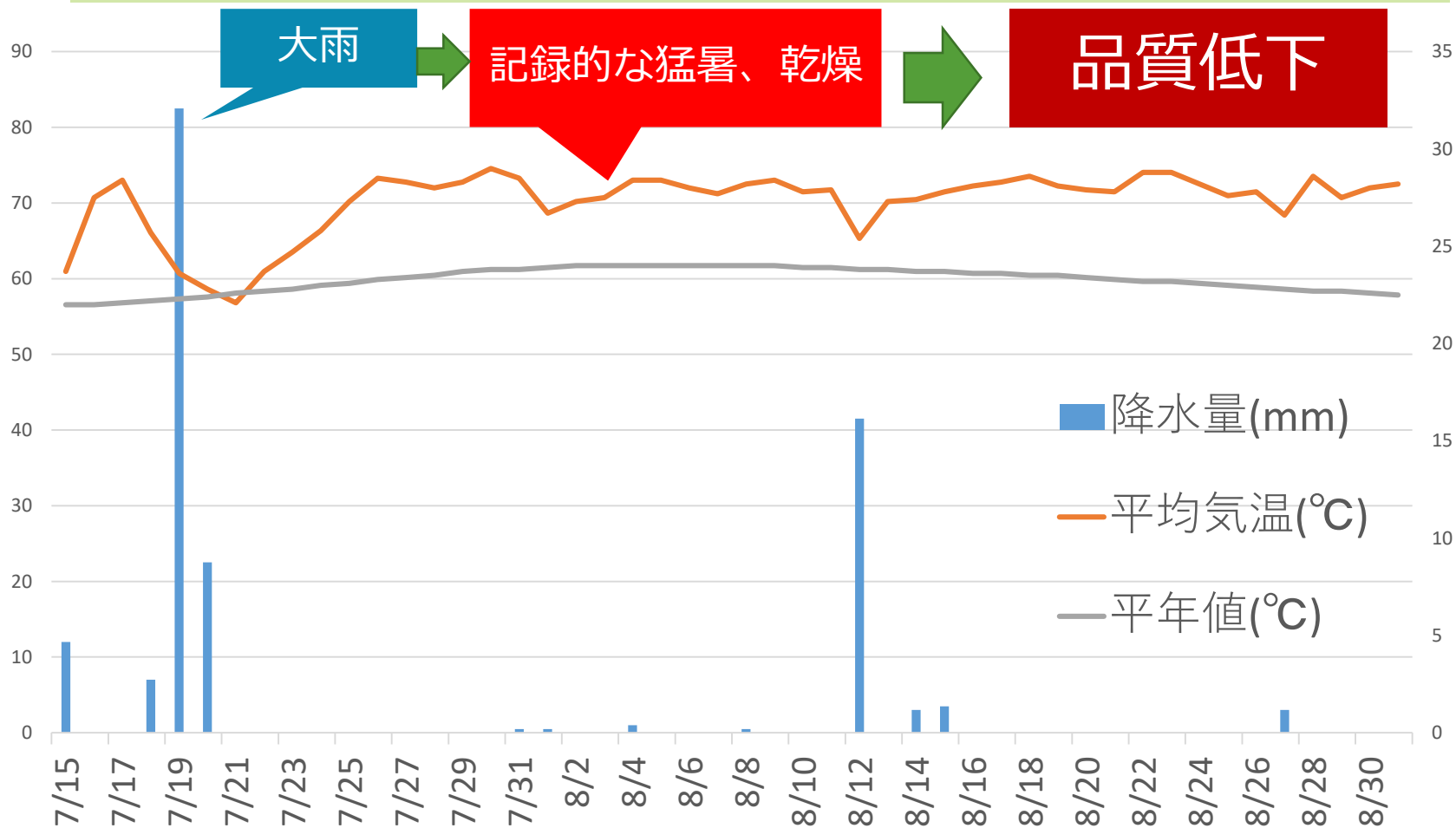
- 実需者ニーズ（出荷時期の拡大）への対応
 - 病害虫、災害のリスクへの対応
 - 品種、作付時期の分散が必要
 - 様々な品種を比較、検討
 - 播種時期の分散により、出荷可能期間の拡大の可能性を検討
-

品種検討① 夏作 推定単収



- 規格外（割れ、奇形）が多発
- 可販率の大幅な低下（特にみちのくの春（遅まき）、クリスティーヌ）

品種検討① 夏作 気象



アメダスデータ(鹿島台)より

品種検討① 夏作にんじんの課題

排水の良いほ場を
選んだが・・・
明渠など排水対策も
行ったが・・・



**気象災害リスク
の影響を受けや
すい**

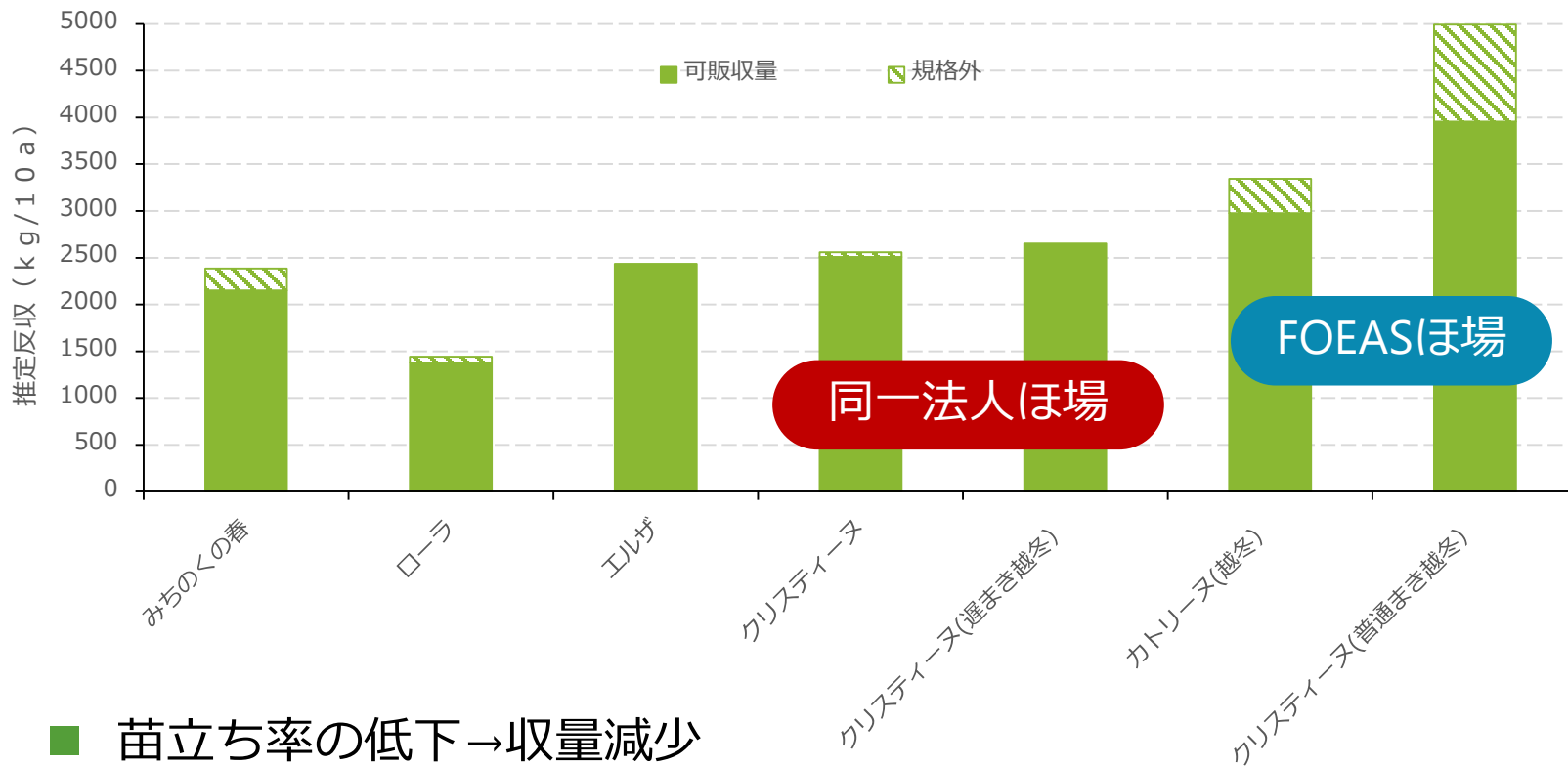
R4冠水被害 収穫皆無
R5高温乾燥 収量、品質低下

2年連続で被害

水管理が可能なほ場の選択（FOEAS、灌水可能なほ場）
排水対策、灌水の実施が必要












品種検討② 冬作 推定単収

※ 1 m掘り取り重量から推定



- 苗立ち率の低下→収量減少
- みちのくの春、エルザ、クリスティーヌ：2.5 t / 10a程度
ローラ：約1.5 t / 10a
- 可販率は90%以上
- 越冬作型 収量確保の可能性
- FOEASほ場で収量が高い

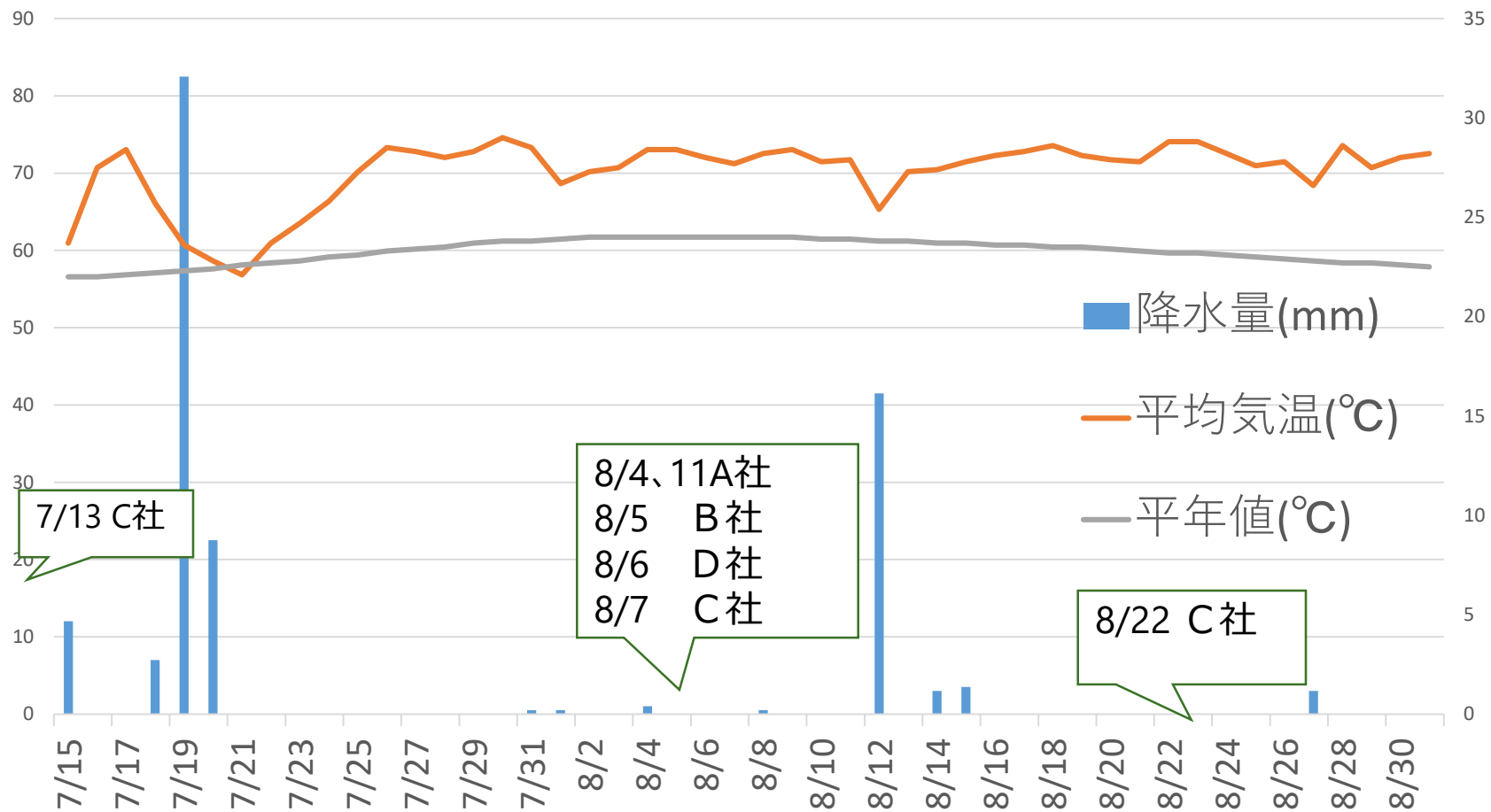
冬作 苗立ち率の低下、初期生育不良

	金美プラス (8/11播種, 苗立ち7.9%)	MKS-D-904 (8/11播種, 苗立ち10.3%)	ローラ (8/11播種, 苗立ち20.6%)	みちのくの春 (8/11播種, 苗立ち30.9%)
9月14日				
10月3日				
10月10日				

・同一ほ場における初期生育の様子。高温及び乾燥の影響で発芽が悪かった。

・秋間灌水を実施したものの、十分お効果は得られなかった。

品種検討② 冬作 気象と播種日



アメダスデータ(鹿島台)より



品種検討② 冬作にんじんの課題

苗立ち率向上

播種後の灌水対策
FOEASの活用、畝間灌水

越冬作型の検討

品種、播種時期
複数年のデータ収集

栽培技術改善で対応



対象法人との検討

対象法人と、品種比較試験成績、気象条件、
今後の課題について説明・検討

来年は冬作の播種後の土壌水分管理をしっかりとしなければ

コーティング種子に合った水管理を行って苗立ち率向上を目指したい



米、麦、大豆と両立できる面積規模を検討したい



販路開拓支援



実需者とのマッチング支援

販売先が加工業務用 1 社のみ → リスクが大きい

M社

R4年度 マッチ
ング、商談



R5年冬作より出
荷開始

R社

R5年12月～
マッチング
商談 (Webミーティング)

- 生食用ニーズ
- 調製作業必要

販売戦略の再検討

加工用にんじん販売量の伸び悩み

これまで

販売先の複数化

出荷期間の延伸

実需者と商談
情報収集

販売戦略の再検討

生食向けも視野
栽植密度の変更、調整作業の委託

「出荷」から「販売」へ



目標達成状況と今後に向けて



目標達成状況（定量的数値目標）

加工業務用として12月末までに出荷する総量

	R 3	R 4	R 5
目標		75.1 t (7%増)	80.7 t (15%増)
実績	70.2 t	50.8 t (冬作のみ)	26.1 t (69.3 t 4月まで出荷見込み含む) 夏作 17.7 t 冬作 8.4 t (12月まで出荷) 51.6 t (4月まで出荷見込み)

気象条件の影響

夏作 R 4 冠水被害で収穫皆無、R 5 高温乾燥で収量・品質低下
冬作 R 5 播種期の乾燥で苗立ち率低下

販売先の要望

12月までにほぼ全量出荷を想定→4月まで分散して出荷するよう要望

目標達成状況（定性的目標）

生産技術の向上

- 病害虫防除→主要病害虫、ほぼゼロ

達成

品質確保、出荷量の増加

- 夏季高温の影響 →夏作の収量、品質の低下
- 冬作の苗立ち率の低下

気象条件
の影響

複数の農業法人による安定生産、継続出荷

- 夏作出荷 7月下旬～9月上旬
- 冬作出荷 10月下旬～4月(予定)
- 作付状況の共有、リレー出荷を実現

リレー出荷
実現



今後の取組

残された課題

【冬作】 苗立ち率向上 播種後の灌水対策
越冬作型

【夏作】 気象災害リスクへの対策

【販売】 販売先分散によるリスク対策
新規販売先の開拓

経営上の位置づけの判断が必要

R 6 年度～ 重点活動における支援